第2部

人口と世帯

12 県人口
13 世帯数
14 市町村別人口の増減
15 市町村別昼夜間人口比率
16 人口ピラミッド
17 年齢3区分別人口
18 転入・転出状況
19 出生率・死亡率
20 婚姻・離婚率
21 平均初婚年齢
22 県内在留外国人数の推移
23～31 特集 奈良県の将来人口推計と「第3期奈良県地方創生総合戦略」

第2部 ｜ 人口と世帯

県人口

2023(R5)年10月1日現在の奈良県の推計人口は129万5,681人

CHECK 奈良県の人口は1999(H11)年をピークに減少しています。

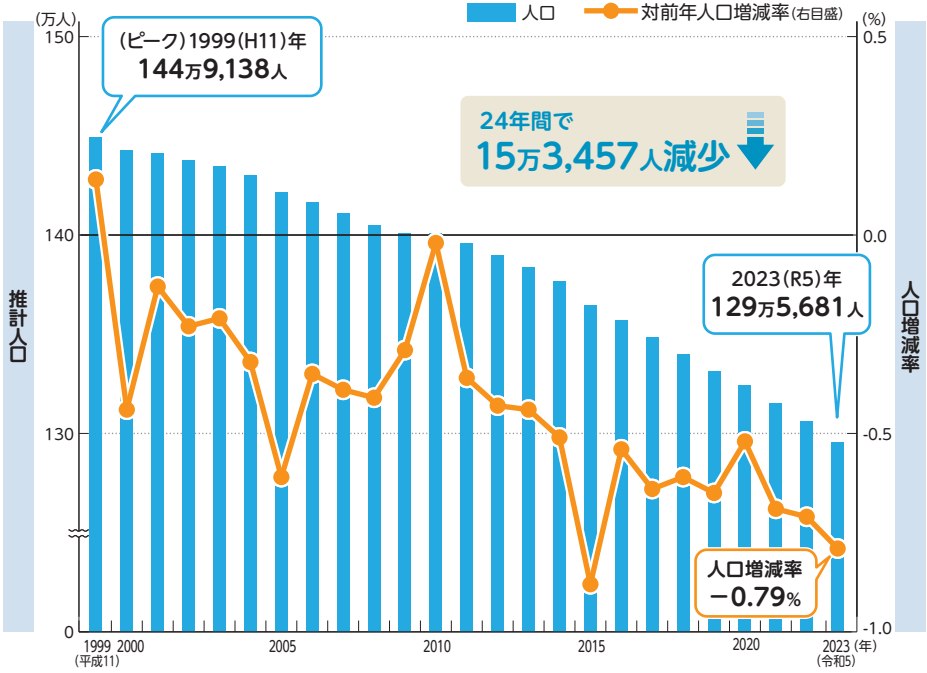
1920(T9)年に実施された第一回国勢調査での奈良県の人口は56万4,607人でした。この人数は、全国の5,596万3千人のうちの1.0%で、全国46位でした。

県人口のピークは1999(H11)年の144万9,138人で、1920(T9)年の約2.6倍、全国1億2,666万7千人のうちの1.1%で、全国29位でした。その後は緩やかに減少傾向が続き、この24年間で15万3,457人の減少となっています。

●推 計 人 口…国勢調査時の人口に、その後の出生・死亡・転入・転出による人口の増減を加算したもので、住民基本台帳の人口とは異なる。

毎年10月1日現在の推計人口及び人口増減率の推移

資料：県政策推進課「奈良県推計人口年報」



※2000(H12)年、2005(H17)年、2010(H22)年、2015(H27)年及び2020(R2)年は国勢調査確報値。

世帯数

世帯数は増加が続き、1世帯あたりの規模は年々縮小

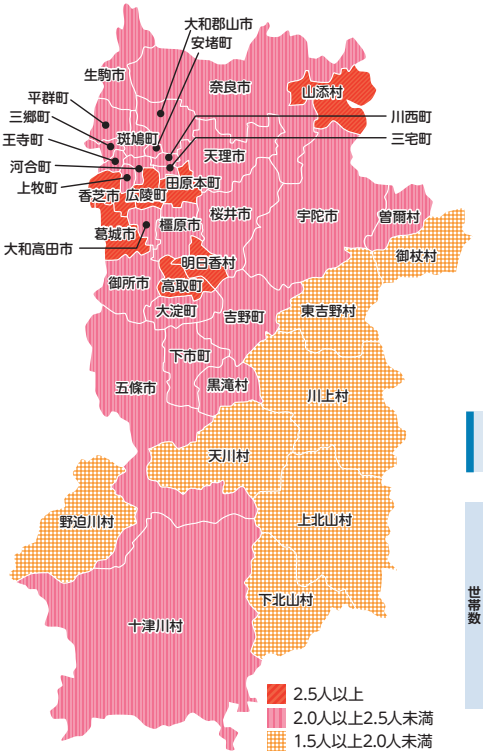
CHECK 2023(R5)年10月1日現在の世帯数は55万4,292世帯で、前年と比べ2,640世帯(0.48%)増加しました。1世帯当たりの人員は2.34人となっています。

人口総数は減少している中で、世帯数は増加を続けていますが、1世帯当たりの規模は年々縮小しています。1世帯当たりの人員を市町村別にみると、高取町2.79人、明日香村2.73人、広陵町2.73人の順に多く、少ないのは、上北山村で1.59人、下北山村1.64人、野迫川村1.71人となっています。

●世　帯　数…国勢調査時の世帯数に、その後の転入・転出による世帯数の増減を加算したもので、住民基本台帳の世帯数とは異なる。

市町村別の1世帯当たり人員(2023(R5)年)

資料：県政策推進課「奈良県推計人口年報」



1世帯当たり人員の多い市町村

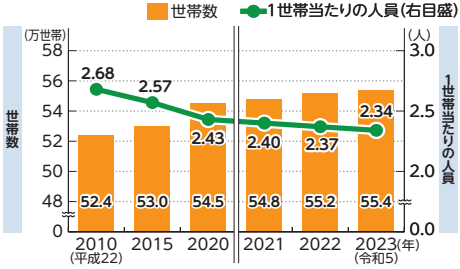
高取町	2.79人	山添村	2.71人
明日香村	2.73人	葛城市	2.67人
広陵町	2.73人	香芝市	2.53人
		田原本町	2.52人

1世帯当たり人員の少ない市町村

上北山村	1.59人	川上村	1.81人
下北山村	1.64人	東吉野村	1.88人
野迫川村	1.71人	天川村	1.95人
		御杖村	1.95人

世帯数と1世帯当たりの人員の推移

資料：県政策推進課「奈良県推計人口年報」、総務省統計局「国勢調査」



※2005(H17)年、2010(H22)年、2015(H27)年、2020(R2)年は国勢調査確報値。

市町村別人口の増減

直近5年間で人口が増加した市町村は、広陵町、葛城市、斑鳩町、王寺町の4市町

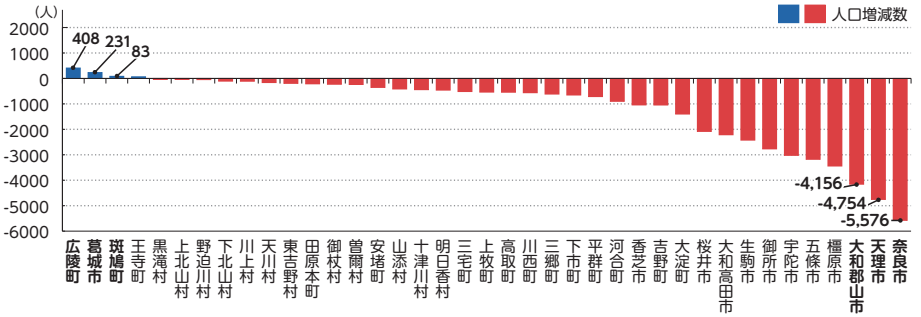
CHECK 2018(H30)年10月1日～2023(R5)年9月30日の5年間で人口が増加したのは4市町、減少したのは35市町村でした。

奈良県推計人口年報でみると奈良県の人口は、直近5年間で4万4,389人（市部3万4,425人、郡部9,964人）減少しています。市町村別にみると、増加数が多いのは広陵町（408人増）、葛城市（231人増）、斑鳩町（83人増）の順で、減少数が多いのは奈良市（5,576人減）、天理市（4,754人減）、大和郡山市（4,156人減）の順となっています。

増加率が高いのは、広陵町1.21%、葛城市0.62%、斑鳩町0.30%の順、減少率が高いのは、曽爾村▲16.63%、吉野町▲15.64%、御杖村▲14.51%の順となっています。

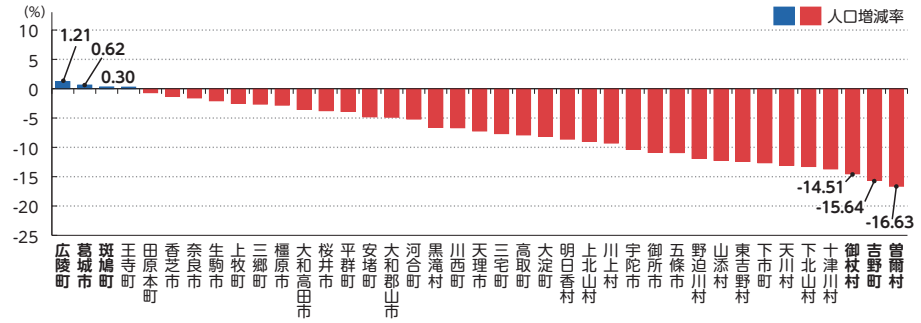
市町村別人口増減数（2018(H30)年～2023(R5)年）

資料：県政策推進課「奈良県推計人口年報」



市町村別人口増減率（2018(H30)年～2023(R5)年）

資料：県政策推進課「奈良県推計人口年報」



市町村別昼夜間人口比率

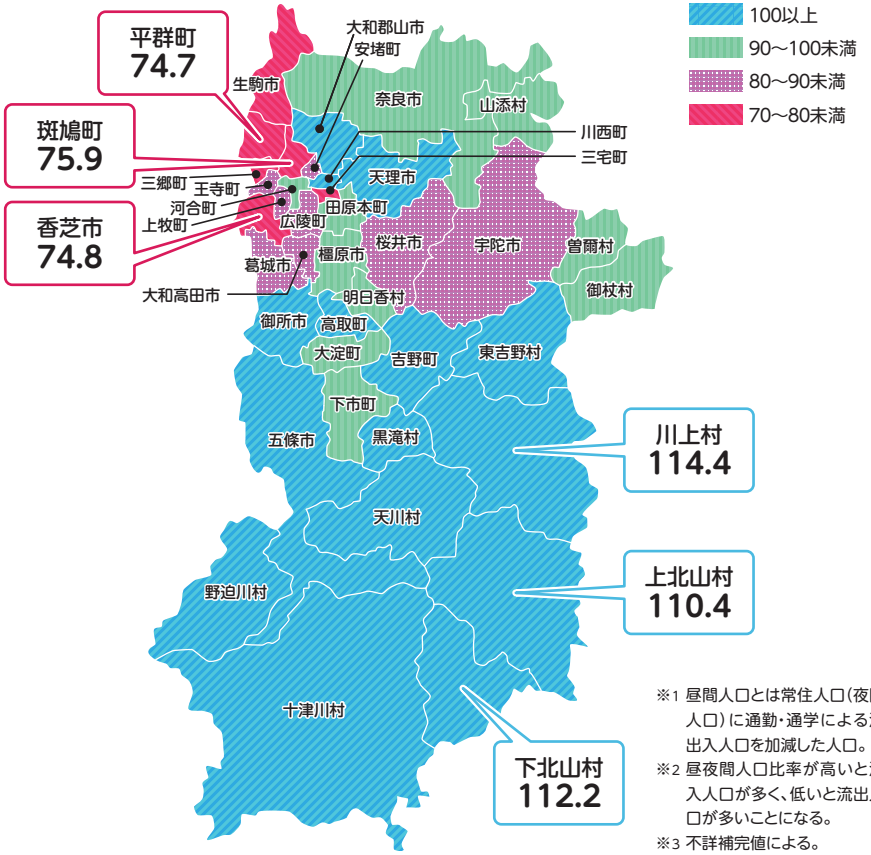
昼夜間人口比率が低いのは、平群町、香芝市、斑鳩町の順

CHECK 奈良県内市町村別の昼間人口は、奈良市が33万6,004人と最も多く、次いで橿原市が11万752人、生駒市が9万2,456人となっています。

2020(R2)年の昼夜間人口比率(夜間人口100人当たりの昼間人口の比率)は、川上村が114.4と最も高く、次いで下北山村が112.2、上北山村が110.4となっています。これに対して、昼夜間人口比率が最も低いのは平群町が74.7、次いで香芝市が74.8、斑鳩町が75.9となっています。県全体の昼夜間人口比率は、全国で4番目に低く90.2となっています。

市町村別昼夜間人口比率

資料：総務省統計局「令和2年国勢調査」



※1 昼間人口とは常住人口(夜間人口)に通勤・通学による流出入人口を加減した人口。
※2 昼夜間人口比率が高いと流入人口が多く、低いと流出人口が多いことになる。
※3 不詳補完値による。

人口ピラミッド

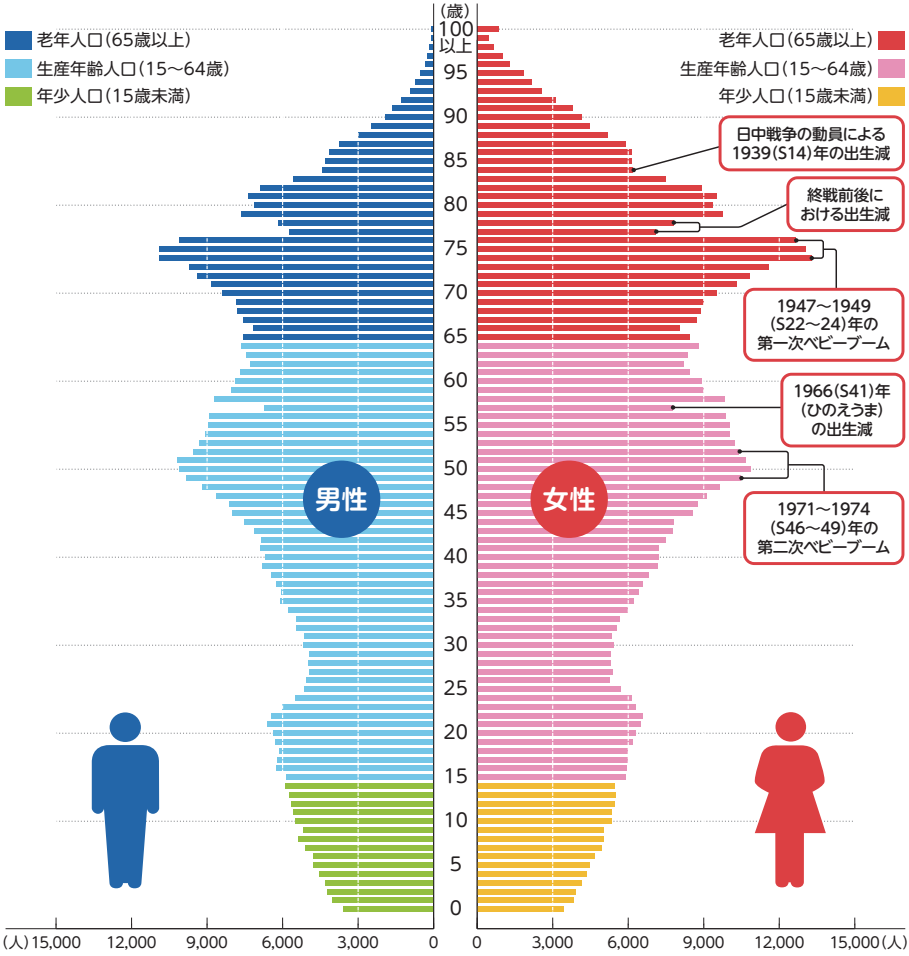
少子高齢化が進む年齢構成

CHECK 奈良県の人口の年齢構造を人口ピラミッドの形態によってみると、「逆ひょうたん型」に近い形となっています。

奈良県の男女別人口（2023（R5）年10月1日年齢別推計人口）は、男性60万9,250人、女性68万6,431人で、女性が男性より7万7,181人多くなっています。

奈良県の人口ピラミッド（2023（R5）年10月1日現在）

資料：県政策推進課「奈良県推計人口年報」



年齢3区分別人口

65歳以上の人口の割合は32.66%と年々増加、市町村別にみると、御杖村61.23%、東吉野村が60.48%と高い

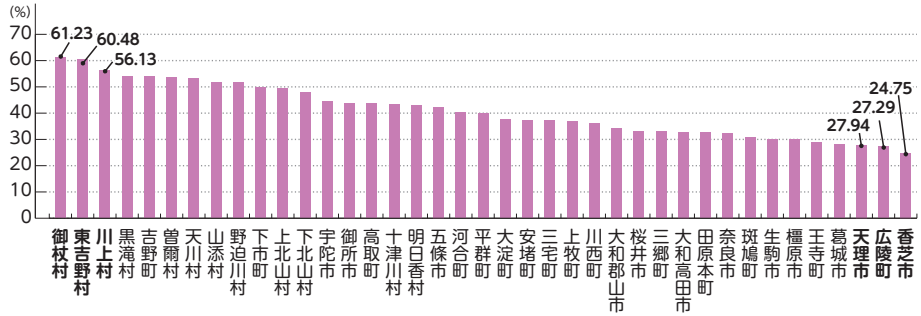
CHECK

年齢3区分別にみると、2023(R5)年の年少人口(0～14歳)は14万5,072人(県人口の11.20%)、生産年齢人口(15～64歳)は72万7,425人(56.14%)、老年人口(65歳以上)は42万3,184人(32.66%)で、老年人口の割合が年々増加しています。

2023(R5)年の老年人口の割合を市町村別にみると、御杖村61.23%、東吉野村60.48%、川上村56.13%と高く、低いのは香芝市24.75%、広陵町27.29%、天理市27.94%となっています。

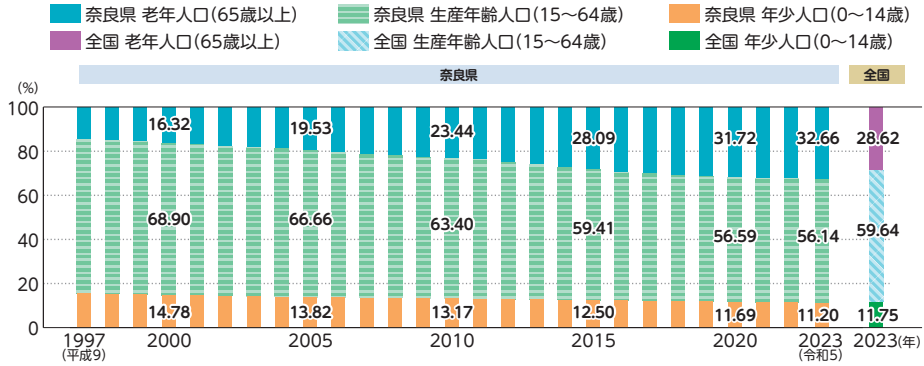
市町村別の老年人口割合(2023(R5)年)

資料：県政策推進課「奈良県推計人口年報」



年齢3区分別人口割合の推移

資料：県政策推進課「奈良県推計人口年報」※平成27年以前は「奈良県年齢別人口調査」による
総務省自治行政局「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」



転入・転出状況

1998(H10)年から26年連続で転出超過

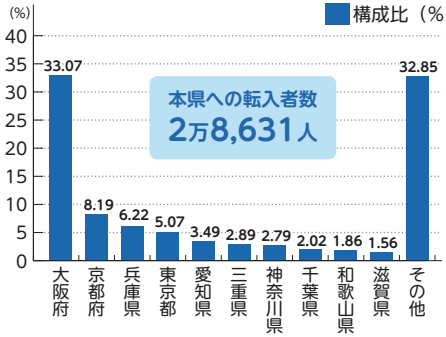
CHECK

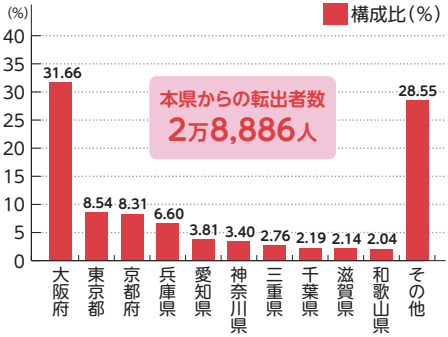
2022(R4)年10月1日から2023(R5)年9月30日の1年間に、県外から本県への転入は2万8,631人、本県から県外への転出は2万8,886人で、差し引き255人の転出超過となっています。

本県では1965(S40)年の調査開始以来転入超過が続いていましたが、1998(H10)年からは26年連続で転出超過となっています。転入・転出ともに大阪府が最も多く、転入では大阪府(9,468人)、京都府(2,345人)、兵庫県(1,781人)の順で多く、転出は大阪府(9,144人)、東京都(2,468人)、京都府(2,399人)の順となっています。

都道府県別移動状況(上位10都道府県)2022(R4)年10月1日～2023(R5)年9月30日

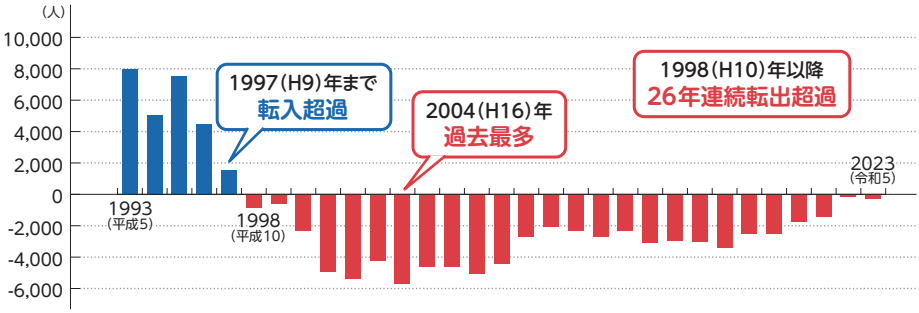
資料：県政策推進課「奈良県推計人口年報」





県外移動者数(本県への転入者数－本県からの転出者数)の推移(奈良県)

資料：県政策推進課「奈良県推計人口年報」



※各年の転入、転出者数は、前年10月1日から当年9月30日までの移動者数を表す。

出生率・死亡率

2005(H17)年から死亡率が出生率を上回る

CHECK

2022(R4)年の出生数は7,315人、死亡数は1万7,166人で、差し引き9,851人の減少となっています。出生率(人口千対)は5.7、死亡率(同)は13.3となっており、2005(H17)年から死亡率が出生率を上回る状況が続いています。

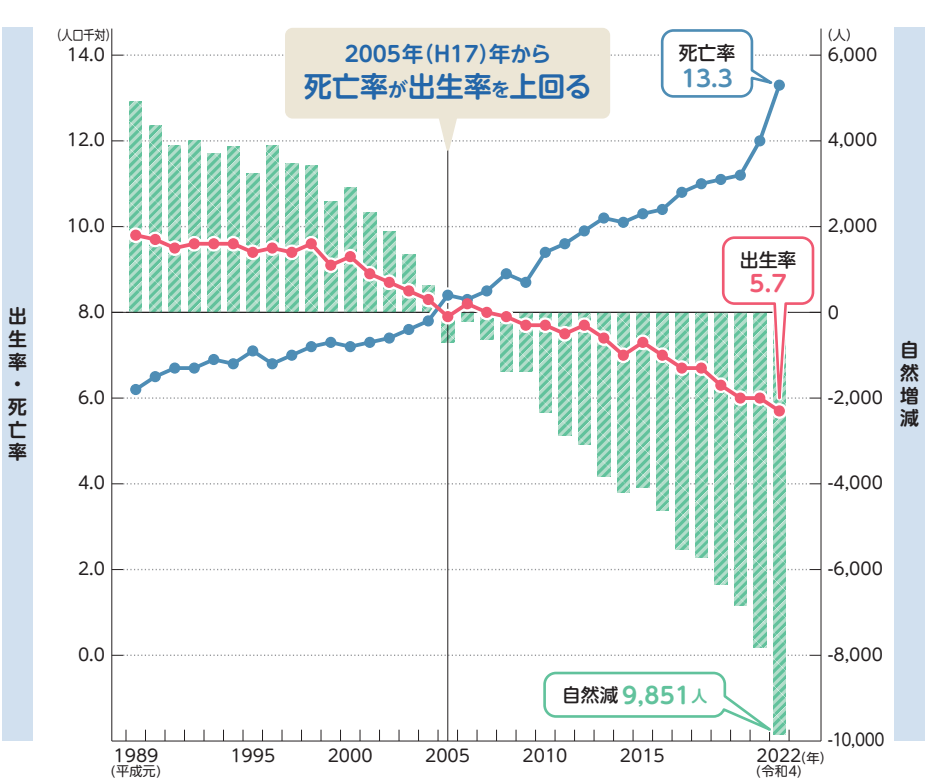
2005(H17)年からの自然減(死亡超過)の推移をみると、2005(H17)年696人減、2006(H18)年208人減、2007(H19)年641人減であったのが、2020(R2)年6,847人減、2021(R3)年7,822人減、2022(R4)年9,851人減と減少数が大きくなっています。

なお、2022(R4)年の合計特殊出生率は奈良県値1.25、全国値1.26となっています。

●**合計特殊出生率**…「15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの」で、1人の女性がその年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子ども数

出生率・死亡率・自然増減の推移

資料：厚生労働省「人口動態調査」



婚姻・離婚率

婚姻率は減少傾向

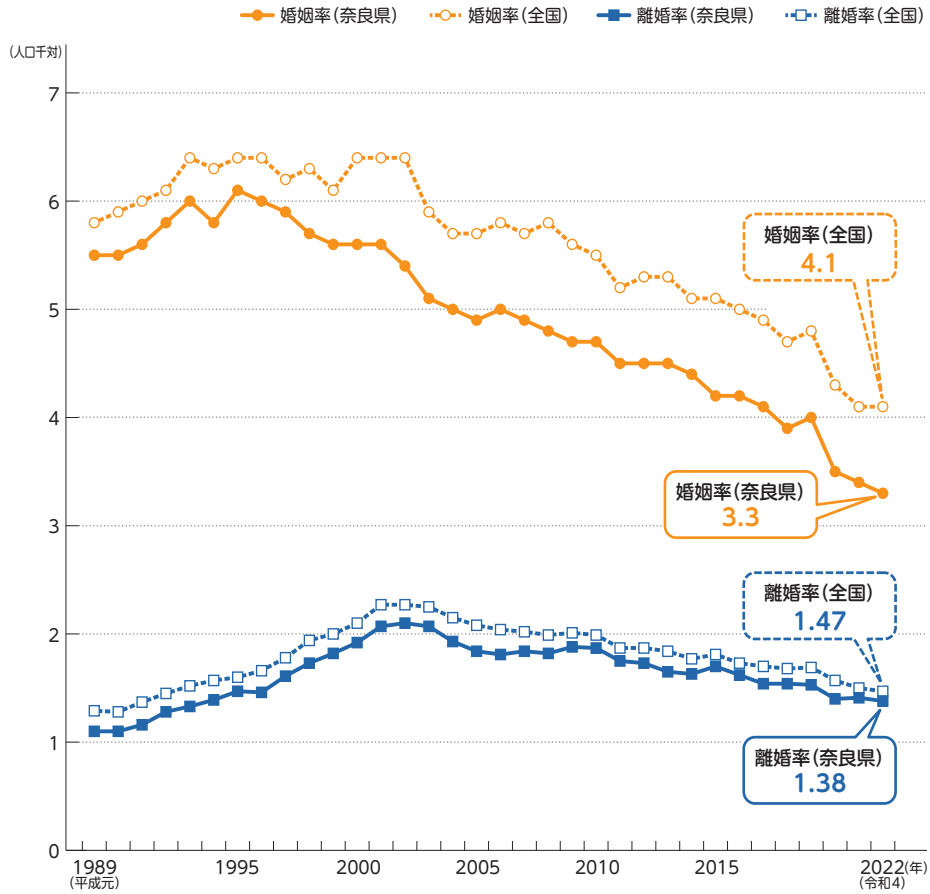
CHECK

2022(R4)年の婚姻件数は4,205組で、婚姻率(人口千対)は3.3となっており、多少の変動はあるものの1995(H7)年以降緩やかに下降しています。一方、離婚件数は1,780組で、離婚率(同)は1.38となっています。

2022(R4)年の本県の婚姻率は前年と比べると0.1ポイント減少し、離婚率は0.03ポイント減少しています。全国と比べると、全国の方が婚姻率、離婚率ともに高い傾向となっています。

婚姻率・離婚率の推移

資料：厚生労働省「人口動態調査」



平均初婚年齢

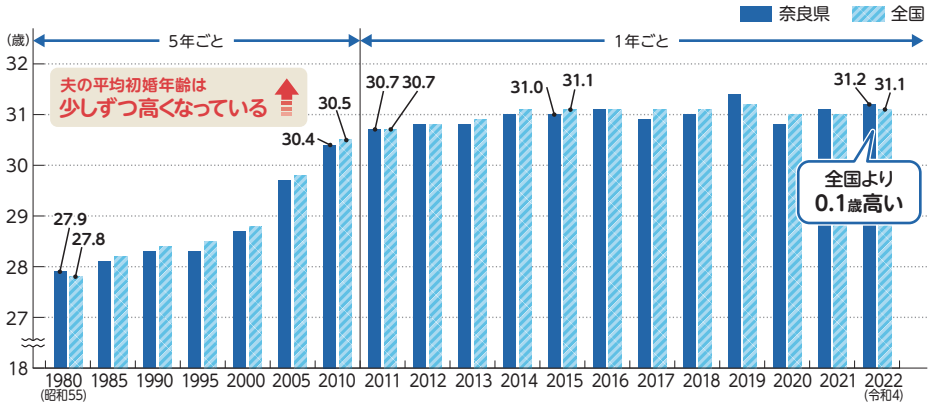
平均初婚年齢は全国平均とほぼ同じ

CHECK 2022(R4)年の平均初婚年齢は夫が31.2歳、妻が29.7歳となっており、2021(R3)年に比べて夫は0.1ポイント、妻は0.3ポイント高くなっています。

2022(R4)年の平均初婚年齢を全国と比べると、夫は全国の31.1歳に対して31.2歳と0.1歳上回っており、妻は全国・県ともに29.7歳となっています。なお、1980(S55)年では、夫は全国が27.8歳、県が27.9歳で、妻は全国、県ともに25.2歳でした。

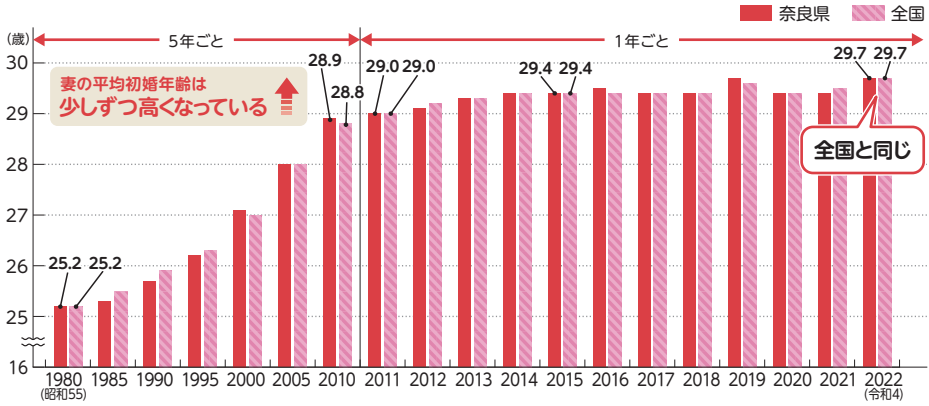
平均初婚年齢の推移(夫)

資料：厚生労働省「人口動態調査」



平均初婚年齢の推移(妻)

資料：厚生労働省「人口動態調査」



県内在留外国人数の推移

県内在留外国人数が1万7,614人と過去最多

CHECK 2023(R5)年の県内在留外国人数は前年から2,024人増の1万7,614人に、出身国・地域別内訳ではベトナムが最多（3,958人)となっています。

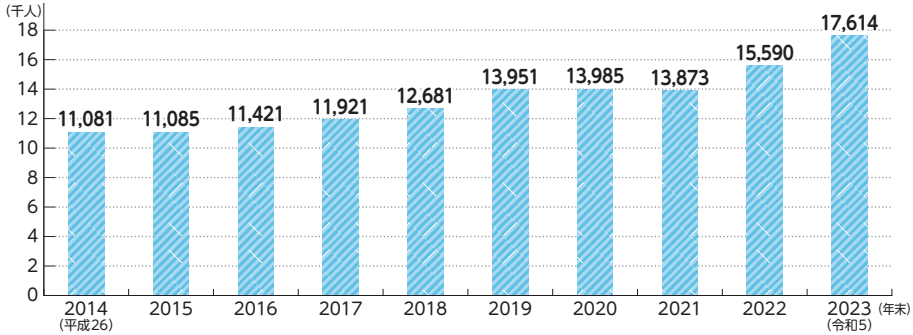
在留外国人統計によると、県内在留外国人の数は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、一時的に減少していましたが、2023(R5)年12月末時点で前年から2,024人増加し、1万7,614人と過去最多となりました。

出身国・地域も、韓国や中国、ブラジルが多くを占めていた状況から、ベトナムやミャンマー、インドネシアなどアジアを中心に多様化しており、前年に引き続きベトナムが最多となりました 。

また、就労に係る在留資格者が大幅に増加しており、技能実習と特定技能を合わせた数は、2019年から2023年のあいだに2倍以上(2019(R1)年:2,175人→2023(R5)年:4,392人)となっています。

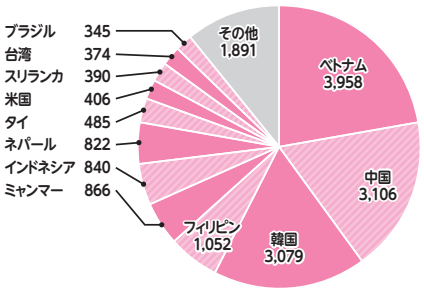
県内在留外国人数の推移

資料：法務省「在留外国人統計」



国籍・地域別県内在留外国人数

(2023(R5)年末)　資料：法務省「在留外国人統計」



在留資格別県内在留外国人数

(2023(R5)年末)　資料：法務省「在留外国人統計」

